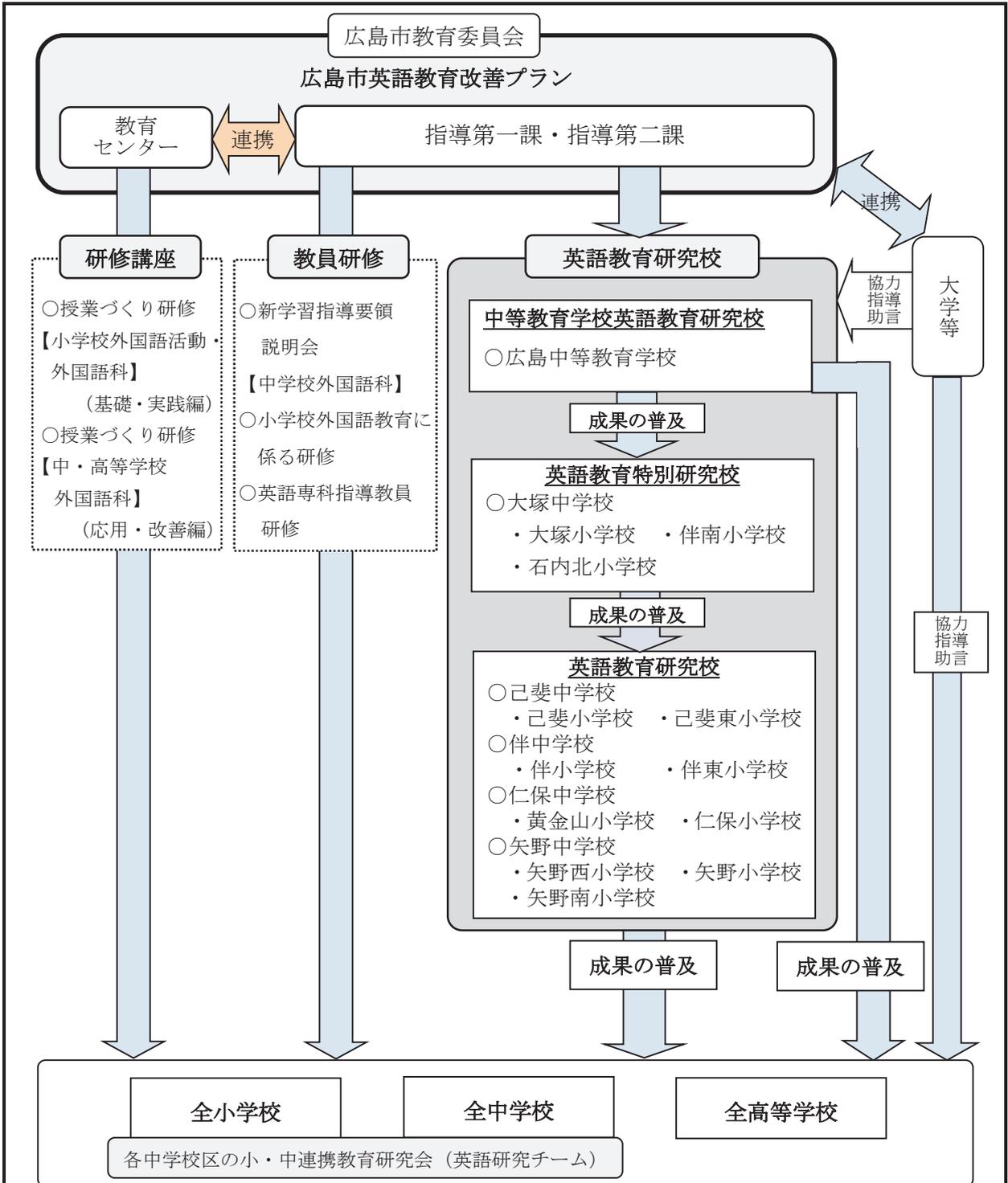


広島市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



<広島市の英語教育の推進について>

「国際平和文都市」を希求し、海外からの多くの人を訪れる本市において、広島歴史や文化、まちづくりの理念や平和への願いなど、広島の思いを英語により発信する子供たちの育成に取り組んでいる。こうしたことから、本市における外国語活動・外国語科の指導体制を見直し英語運用能力の育成に向けた授業を行うことができるよう、広島中等教育学校、大塚中学校等の英語研究校の成果や好事例を各英語教育研究校の公開授業研究会を通じて、全ての中・高等学校などに普及する。また、指導第一課、指導第二課及び教育センターによる研修を通じて、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりができるよう、教員の指導力の向上を図る。

<取組概要>

【英語教育研究校】

[中等教育学校英語教育研究校] 広島中等教育学校

以下の3つの柱について、効率的・効果的な教育方法を研究・開発するとともに、その成果や好事例を全ての高等学校及び英語教育特別研究校に普及する。

- 英語授業の充実<ALTを活用した言語活動の充実>
 - ・ 英語の授業改善（ALTの複数配置）
 - ・ インタビューテストによる成果検証
- 英語を使う場の創出<英語の授業以外で英語に触れる機会の創出>
 - ・ ER（英語多読）の充実
 - ・ イングリッシュキャンプの実施（前期課程3年）
 - ・ 海外修学旅行の実施（後期課程2年）
 - ・ 平和ガイドボランティアの実施
- 高大連携<外部機関との英語教育に関わる連携体制の構築>
 - ・ 広島市立大学：インターネットによるICT機器を活用した英語学習
 - ・ 留学生との文化交流

[英語教育特別研究校] 大塚中学校区

中等教育学校英語教育研究校での研究成果や好事例を検証するとともに、小中連携についての研究を行い、その成果を英語教育研究校や全ての中学校へ普及する。

- 英語授業の充実<ALTを活用した言語活動の充実>
 - ・ ALTの活用
 - ・ CAN-DOリストの活用
 - ・ インタビューテストによる成果検証
- 英語を使う場の創出<英語の授業以外で英語に触れる機会の創出>
 - ・ English Roomの整備・活用
 - ・ ALTの授業以外での活用
 - ・ 英語書籍の整備
- 小中連携<中学校区内で連携した英語教育を実施>
 - ・ 小中連携体制の構築
 - ・ 小学校への出前授業の実施
 - ・ 英語担当者への研修の実施

[英語教育研究校] 己斐中学校区、伴中学校区、仁保中学校区、矢野中学校区

英語教育特別研究校での研究成果や好事例を検証し、その成果を全中学校へ普及する。

[英語教育研究校に係る研修]

- 中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育研究校における授業研究会
- 英語教育特別研究校及び英語教育研究校に係る研究推進リーダー合同研修会

【教員研修（指導第一課・指導第二課）】

- 新学習指導要領説明会【中学校外国語科】
- 小学校外国語教育に係る研修会
- 英語専科指導教員研修会

【研修講座（教育センター）】

- 授業づくり研修（応用・改善編）【中・高等学校外国語科】
- 授業づくり研修（基礎・実践編）【小学校外国語活動・外国語科】

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【高等学校】

① 求められる英語力（CEFR B2レベル）を有する英語担当教員の割合

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
高等学校	63.0%	74.1%	80.0%	80.0%	80.0%

② 求められる英語力（CEFR A2レベル）を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
高等学校	58.4%	61.2%	67.0%	67.0%	67.0%

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

		2018	2019	2020	2021	2022
		達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
高	設定	100%	100%	100%	100%	100%
	公表	87.5%	85.7%	100%	100%	100%
	把握	50.0%	57.1%	70.0%	70.0%	80.0%

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

- ・ コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、生徒が英語を用いて言語活動している時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
高等学校	78.6%	86.1%	90.0%	90.0%	90.0%

⑤ パフォーマンステストの実施状況

- ・ 各授業におけるパフォーマンステストの年間回数の平均

			2018	2019	2020	2021	2022
			達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
現行課程	スピーキングテスト	コミュ英Ⅰ	1.3回	1.6回	2.0回	2.0回	
		コミュ英Ⅱ	0.6回	0.9回	1.5回	1.5回	2.0回
		コミュ英Ⅲ	0.1回	0.5回	1.0回	1.0回	1.5回
		英語表現Ⅰ	1.3回	1.0回	1.5回	1.5回	
		英語表現Ⅱ	0.5回	0.2回	1.5回	1.5回	2.0回
	ライティングテスト	コミュ英Ⅰ	1.7回	2.1回	2.5回	2.5回	
		コミュ英Ⅱ	1.0回	2.3回	2.5回	2.5回	3.0回
		コミュ英Ⅲ	0.1回	1.0回	1.5回	1.5回	2.0回
		英語表現Ⅰ	2.3回	3.0回	4.0回	4.0回	
		英語表現Ⅱ	3.0回	4.7回	5.0回	5.0回	5.5回
新課程	スピーキングテスト	英コミュⅠ					2.5回
		論理・表現Ⅰ					2.0回
	ライティングテスト	英コミュⅠ					2.0回
		論理・表現Ⅰ					4.0回

⑥ 英語担当教師の授業における英語使用状況

- ・ コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
高等学校	77.9%	76.0%	80.0%	80.0%	85.0%

⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数と受講者数（延べ人数）

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
実施回数（回）	7回	1回	3回	未定	未定
受講者数（人）	135人	64人	100人	未定	未定

<本市の現状>

- 求められる英語力を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合は61.2%となっており、昨年度の全国平均値（平成30年度40.2%）と比べて高い。
- 求められる英語力を有する英語担当教員の割合は74.1%となっており、昨年度の全国平均値（平成30年度68.2%）と比べて高い。
- 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している割合は100%であるが、その達成状況を把握している割合は57.1%となっている。
- パフォーマンステストの実施状況では、科目により差がある。また、年度によっても差があり、年間を通して評価の計画が十分でないことが考えられる。

<目標達成のための手立て>

- 中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育研究校による公開授業研究会において、目的や場面、状況等を意識した言語活動の好事例を周知する。
- 学校訪問による授業観察及び指導助言を実施し、英語教育実施状況調査を基に各校の授業改善や「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用の充実を進める。
- ALTの効果的な活用につながるよう、ALT担当者会において、パフォーマンステスト等の充実、授業改善を促す。

【中学校】

① 求められる英語力（CEFR B2レベル）を有する英語担当教員の割合

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
中学校	48.3%	57.7%	60.0%	60.0%	60.0%

② 求められる英語力（CEFR A1レベル）を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
中学校	47.5%	48.0%	60.0%	60.0%	60.0%

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

		2018	2019	2020	2021	2022
		達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
中	設定	100%	100%	100%	100%	100%
	公表	42.2%	56.3%	70.0%	90.0%	100%
	把握	100%	100%	100%	100%	100%

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

- 英語の授業において、生徒が英語を用いて言語活動している時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合

		2018	2019	2020	2021	2022
		達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
中学校		91.3%	89.2%	100%	100%	100%

⑤ パフォーマンステストの実施状況

- 英語の授業におけるパフォーマンステストの年間回数の平均

		2018	2019	2020	2021	2022
		達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
中学校	スピーキングテスト	2.4回	2.5回	3.0回	3.5回	4.0回
	ライティングテスト	2.8回	2.5回	3.0回	3.5回	4.0回

⑥ 英語担当教師の授業における英語使用状況

- 英語の授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

		2018	2019	2020	2021	2022
		達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
中学校		89.9%	87.1%	90.0%	90.0%	90.0%

⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数と受講者数（延べ人数）

		2018	2019	2020	2021	2022
		達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
実施回数（回）		7回	12回	5回	未定	未定
受講者数（人）		230人	333人	220人	未定	未定

<本市の現状>

- 求められる英語力を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合は、48%となっており、昨年度の全国平均値（平成30年度42.6%）と比べて高い。
- 求められる英語力を有する英語担当教員の割合は57.7%となっており、昨年度の全国平均値（平成30年度36.2%）と比べて高い。
- 平成31年度に行われた「全国学力・学習状況調査」の教科全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同じであるが、本市の分析では、生徒自身の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話す力、根拠となる英文を読み取りまとまりのある一貫した文章を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題があると思われる。
- 「CAN-DOリスト」の形式で学習到達目標を設定し、達成状況を把握している学校の割合は100%であるが、学習到達目標を公表している学校は56.3%に留まっている。
- 授業の半分以上の時間、言語活動を行っている生徒の割合は89.2%となっており、授業の中で生徒が英語を使う場を多く設定していることがわかるが、言語活動の内容に注目し、さらに、目的や場面・状況等を意識した言語活動とする必要がある。

＜目標達成のための手立て＞

- 英語教育特別研究校、英語教育研究校での公開授業研究会において、例えば、アメリカにいるALTの家族のために自分たちが住む町のガイドブックを作成するといったような目的や場面、状況等を意識した言語活動の好事例や、生徒が放課後にALTと交流を持つ時間や授業外で英語に触れる場面の創出に関する実践例を紹介する。
- 新教育課程説明会を外国語科教員に対する悉皆研修とし、「移行期間における指導資料」及び「新学習指導要領対応 中学校外国語教材 (Bridge)」の活用方法について説明するとともに、「話すこと (やり取り)」の領域において、互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動が行われるよう指導する。
- 各中学校の授業研究会、教科研修会等における指導・助言を通して、新学習指導要領の趣旨の説明や、各校の「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標の活用やパフォーマンステストの充実を促す。
- 広島市中学校教育研究会英語部会と連携し、英語部会主催の授業研究会にて、新学習指導要領の趣旨を反映した授業改善の視点について指導・助言を行う。

【小学校】

① 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

		2020	2021	2022
		目標値	目標値	目標値
小	設定	50%	75%	100%
	公表	50%	75%	100%
	把握	50%	75%	100%

②・③ 英語担当教員に対する研修実施回数と受講者数 (延べ人数)

	2018	2019	2020	2021	2022
	達成値	達成値	目標値	目標値	目標値
実施回数 (回)	25 回	12 回	7 回	5 回	5 回
受講者数 (人)	1469 人	362 人	480 人	340 人	340 人

＜本市の現状＞

- 令和2年度から完全実施される外国語科授業について、4月からの円滑な導入ができるよう研修が必要である。
- 教師、児童ともに、何ができるようになるかを明確にするために「CAN-DOリスト」の形式で学習到達目標を設定する必要がある。
- 児童の外国語学習に対する意識調査を行い実態把握する必要がある。
- 英語専科指導教員による指導の効果について検証する必要がある。

＜目標達成のための手立て＞

- 小学校外国語教育に係る研修会を、年度初めに実施し以下の項目について周知を図る。
 - ・ 教科書について
 - ・ 指導計画作成について
 - ・ 学習到達目標 (CAN-DOリスト) 作成について
 - ・ 言語活動を充実させた授業づくりについて
 - ・ 評価について
- 英語専科指導校にアンケート調査を行い、指導の効果を検証する。
 - ・ 児童質問調査書 (年間2回)
 - ・ 英語専科指導教員対象の調査
 - ・ 管理職対象の調査
- 英語専科指導教員に対する研修を実施する。
- 英語教育研究校の好事例の情報提供を行う。

【小学校英語専科】

新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

	2020	2021	2022	2023	2024	2025
	達成値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
割合 (%)	9.6%	18%	26%	34%	42%	50%
人数 (人)	16 人	23 人	26 人	34 人	42 人	50 人

○ 目標を達成するための具体的な手立て

本市においては、平成 27 年から教員採用候補者選考試験一般選考について、一定の基準（英検準 1 級等）に到達した志願者を対象に、第一次選考試験における筆記試験の得点に最大 20 点の加点を行い、英語力を有する優秀な人材確保に向けての取組を進めている。

今後とも、採用選考試験説明会等（年 54 会場程度）において、本優遇制度を周知し、志願者の積極的な英語に係る資格取得促進に取り組むこととしている。

(3) 研修の体系と内容の具体

<グローバル化に対応した英語授業力アップ研修について（実績）>

各校種において、英語教育推進リーダーによる研修を実施した。

校種	研修開催年度	受講者数（合計）
高等学校	平成 28 年度～平成 30 年度	63 名
中学校	平成 27 年度～平成 31 年度	228 名
小学校	平成 27 年度～平成 31 年度	143 名（全小学校から中核教員 1 名ずつ）

<令和 2 年度の研修予定>

【英語教育研究校に係る研修】

①

研修名	中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育研究校における授業研究会 （担当：指導第二課）
対象	小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の外国語科教員
目的	各英語教育研究校において公開研究会を実施し、聞くことや話すことを中心としたコミュニケーション能力の育成を目指した授業提案や好事例及び研究成果を普及する。
内容	【公開授業研究会】 ・ 授業参観及び協議 【実践発表】 ・ 「英語授業の充実」、「英語を使う場の創出」、「小中連携」等を柱とした取組の実践発表
受講予定者数	95 名
研修の評価方法	・ アンケート

②

研修名	英語教育特別研究校及び英語教育研究校に係る研究推進リーダー合同研修会（担当：指導第二課）
対象	英語教育特別研究校及び英語教育研究校の外国語科教員
目的	英語教育特別研究校及び英語教育研究校の研究推進リーダー等に、研究推進に係る能力及び指導力の向上を図る研修を行うことで、研究校における効果的かつ円滑な研究推進の一助とする。
内容	【公開授業研究会】 ・ 授業参観及び協議 【実践交流】 ・ ER（英語多読） ・ Ma g や e - ラーニングを用いた学習活動 ・ AL T を活用した言語活動の取組
受講予定者数	20 名
研修の評価方法	・ アンケート

【教員研修（指導第一課・指導第二課）】

③

研修名	新学習指導要領説明会【中学校外国語科】（担当：指導第二課）
対象	中学校・中等教育学校の外国語科教員
目的	「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成について周知し、授業づくりについて理解を深め、授業改善をすることができる。
内容	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の構造 ・ 学習評価の課題と改善の基本方針 ・ 学習評価の進め方 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順 ・ 授業改善計画の作成
受講予定者数	100名
研修の評価方法	・アンケート ・単元計画の立案

④

研修名	小学校外国語教育に係る研修会（担当：指導第一課）
対象	小学校教員・英語専科指導教員
目的	小学校外国語科の趣旨・内容を理解し、円滑な導入を図るとともに、本市の英語教育に係る教員の指導力の向上を図る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定教科書「New Horizon Elementary 1・2」の説明（外部講師） ・ 指導者用デジタルブックのインストール方法及び使い方、教科書の特徴について ・ 外国語科の授業について（指導第一課職員） ・ 指導計画作成について ・ 学習到達目標（CAN-DOリスト）作成について ・ 言語活動を充実させた授業づくりについて ・ 評価について
受講予定者数	141名
研修の評価方法	・アンケート ・学習到達目標

⑤

研修名	英語専科指導教員研修会（担当：指導第一課）
対象	英語専科指導教員
目的	新学習指導要領における小学校外国語科及び外国語活動の導入に伴って、英語専科指導教員を対象に研修を行い、英語教育の充実に資する。
内容	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の課題について ・ 言語活動に充実に向けた授業改善 ・ 改善の視点を意識した自己の実践の振り返り ・ 評価について 【実践発表】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の充実を図った授業改善について（広島市立小学校教諭） 【情報交換】
受講予定者数	のべ160名
研修の評価方法	・アンケート ・授業改善計画書

【研修講座（教育センター）】

⑥

研修名	授業づくり研修（応用・改善編）【中・高等学校外国語科】 （担当：教育センター）
対象	中学校・中等教育学校・高等学校の教員
目的	自身の実践を振り返り、自分の思いや考え等を書く力をつけるために必要な授業づくりについて理解を深め、授業改善をすることができる。
内容	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 本市の課題について（教育センター職員） 自分の思いや考え等を書く力の育成に向けた授業改善（外部講師） 改善の視点の振り返り（教育センター職員） 評価の視点 【自己の実践の振り返り】 <ul style="list-style-type: none"> 改善の視点を意識した自己の実践の振り返り 【実践発表】 <ul style="list-style-type: none"> 単元計画・評価計画作成の考え方（広島市立中学校教諭） 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 授業改善計画の作成
受講予定者数	35名
研修の評価方法	・アンケート ・授業改善計画書

⑦

研修名	授業づくり研修（基礎・実践編）【小学校外国語活動・外国語科】 （担当：教育センター）
対象	小学校・特別支援学校の教員
目的	小学校外国語活動・外国語科における、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの視点を得る。
内容	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 本市の課題と授業づくりの視点（教育センター職員） 本市の課題を踏まえた単元目標の設定と評価（指導第一課職員） 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの視点（外部講師） 実践の視点の確認（教育センター） 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 授業計画の作成 【授業参観】 <ul style="list-style-type: none"> 「コミュニケーションを行う目的・場面・状況の明確化」の視点を意識した授業の実際（中学年・高学年）（広島市立小学校教諭） 【協議】 <ul style="list-style-type: none"> 事後協議 【自己の振り返り】 <ul style="list-style-type: none"> 実践の視点を意識した自己の授業の振り返り
受講予定者数	60名
研修の評価方法	・アンケート ・授業実践計画書

